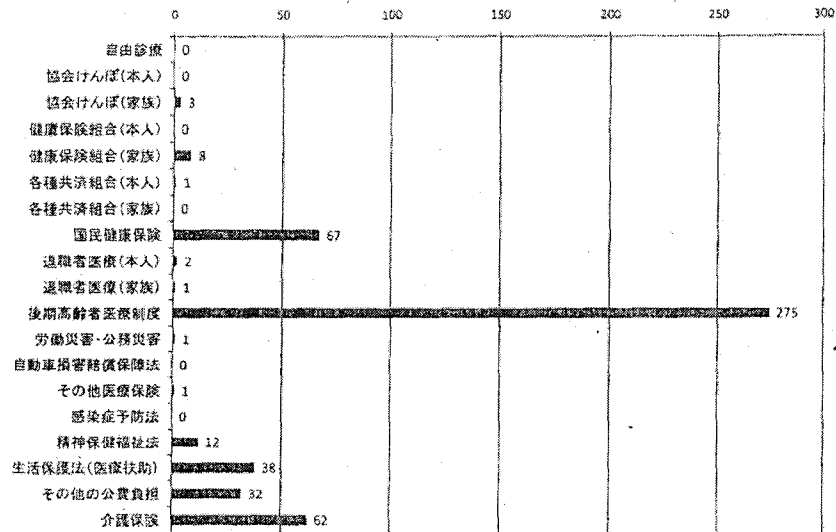


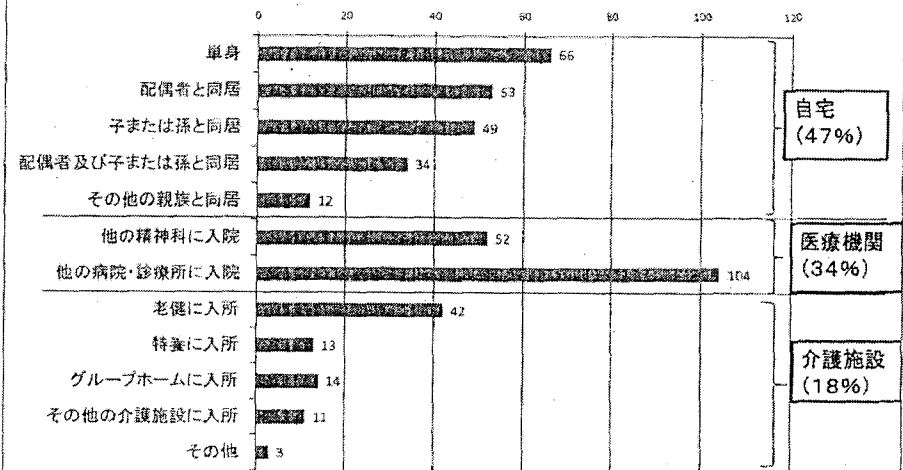
問15 診療費等支払い方法

(複数回答可) (N=454)



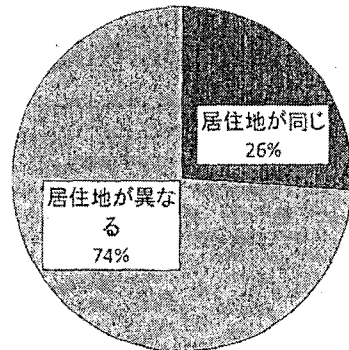
問17 対象者の入院前の状況

(N=453)



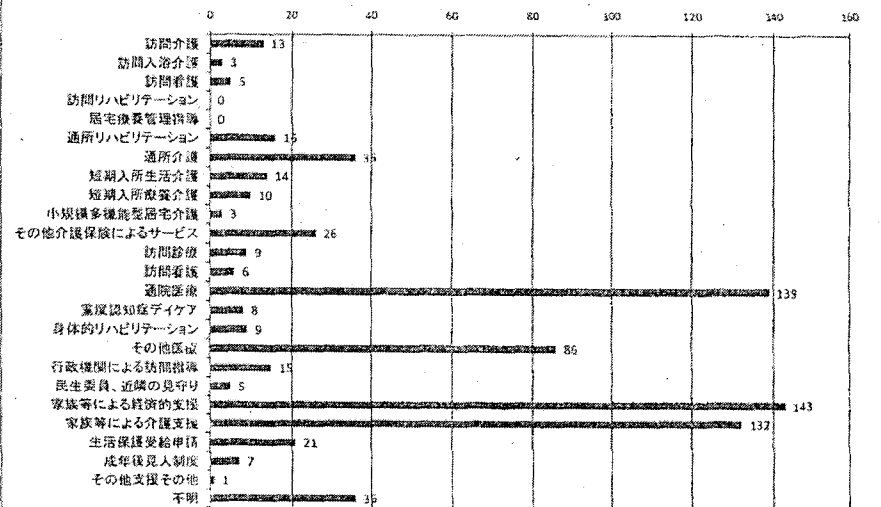
問16 病院の所在市町村と患者居住地が同じか

(N=453)



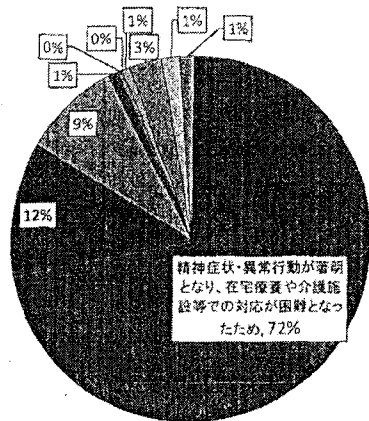
問18 入院直前の介護サービス、医療、その他の支援の利用状況

(複数回答可) (N=453)



問19 入院の理由

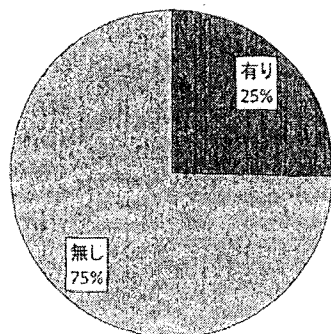
(N=453)



- 精神症状・異常行動が著明となり、在宅療養や介護施設等での対応が困難となったため
- 精神科以外の医療施設で身体合併症の治療を行っていたが、精神症状・異常行動が著明となり治療継続ができなくなったため
- 身体疾患の急性期状態が安定し、精神症状の加療が必要なため
- 精神症状は安定しており、精神科以外の医療施設や介護施設等でも対応できると思われるが、適切な施設に空きがなかったため
- 精神症状は安定しており、精神科以外の医療施設や介護施設等でも対応できると思われ、適切な施設に空きはあったが、医療介護サービスの対応が困難と言われたため
- 精神症状は安定しており、在宅療養でも対応できるが、必要な在宅医療が確保できなかったため
- 精神症状は安定しており、在宅療養でも対応できるが、必要な在宅介護サービスが確保できないため
- 精神症状は安定しており、在宅療養でも対応できるが、家族の介護困難、又は介護者不在のため
- 上記以外で、家族等が強く希望するため
- その他

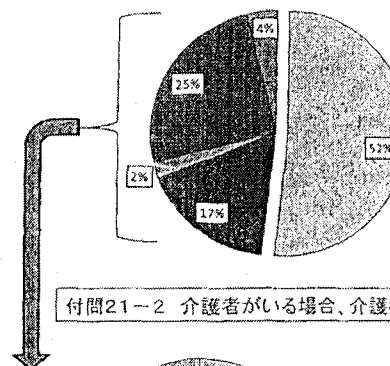
問20 対象者の地域との関わり合い(身近に気軽に相談できる相手がいるなど)

(N=453)



問21 自宅での介護者の有無

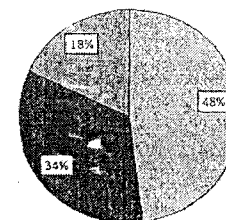
(N=451)



- 日中、夜間とも介護ができる人がいる
- 夜間のみ、介護ができる人がいる
- 日中のみ、介護ができる人がいる
- 日中、夜間とも介護ができる人がいる
- 不明

付問21-2 介護者がいる場合、介護者の健康状態

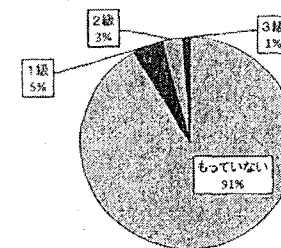
(N=200)



- 健康状態に問題なし
- 健康状態に不安がある
- 不明

問22 身体障害者手帳

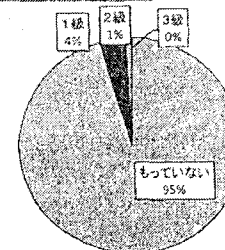
(N=450)



- もっていない
- 1級
- 2級
- 3級

問23 精神障害者保健福祉手帳

(N=448)

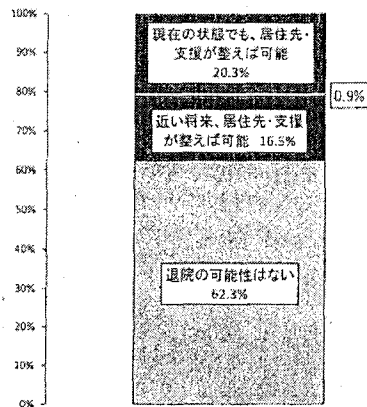


- もっていない
- 1級
- 2級
- 3級

問24 居住先・支援が整った場合の退院の可能性

(N=454)

- 1. 現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能
- 2. 状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能になる
- 3. 状態の改善が見込まれるので、居住先・支援を整えば近い将来(6ヶ月以内)には可能になる
- 4. 状態の改善が見込まれず、居住先・支援を整えても近い将来(6ヶ月以内)の退院の可能性はない



問26 問24で1、あるいは3と回答した人のうち、退院後に必要な支援

(N=167)

1番目に必要な支援

精神科の定期的な通院	53人	31.7%
小規模多機能型居宅介護	38人	22.8%
自宅を訪問して行われる支援	11人	6.8%
訪問診療	4人	2.4%
短期入所をして行われる支援	4人	2.4%

2番目に必要な支援

身体的リハビリテーション	33人	19.8%
短期入所をして行われる支援	26人	15.0%
経済的支援	23人	13.8%
訪問診療	20人	12.0%
精神科の定期的な通院	19人	11.4%

3番目に必要な支援

自宅以外の場所に通って行われる支援	22人	13.2%
訪問診療	22人	13.2%
経済的支援	15人	9.0%
精神科の定期的な通院	12人	7.2%
身体的リハビリテーション	8人	4.8%

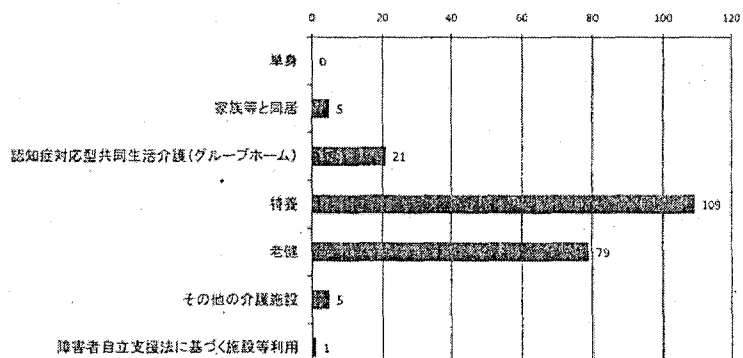
4番目に必要な支援

精神科以外の定期的な通院	11人	6.6%
重度認知症デイケア	11人	6.6%
身体的リハビリテーション	9人	5.4%
成年後見制度等の活用	9人	5.4%
自宅以外の場所に通って行われる支援	6人	3.6%

問25 問24で1、あるいは3と回答した人のうち、退院出来ると仮定した時、適切と考えられる「生活・療養の場」

(複数回答可) (N=167)

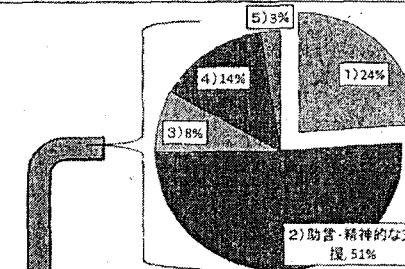
単身	0	0.0%
家族等と同居	5	3.0%
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	21	12.6%
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	103	65.3%
介護老人保健施設(老健)	79	47.3%
その他の介護施設(有料老人ホーム、軽費老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅など)	5	3.0%
障害者自立支援法に基づく施設等利用(ケアホーム、グループホームなど)	1	0.6%



※33人は、特養と老健を重複して回答

問27 問24で1、あるいは3と回答した人のうち、仮に退院するとした場合、家族や友人などから得られる支援の程度

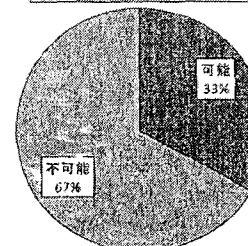
(N=167)



- 1. 支援は得られない
- 2. 助言・精神的な支援
- 3. 数回回のADL、IADLの支援
- 4. ほぼ毎日のADL、IADLの支援
- 5. 必要であれば24時間を通じてのADL、IADLの支援や見守り

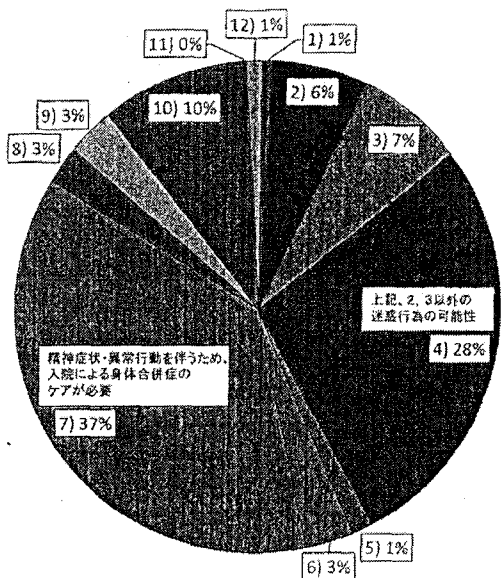
付問27-1 問27で2、3、4、5と回答した人のうち、回答した支援が得られれば退院可能か

(N=125)



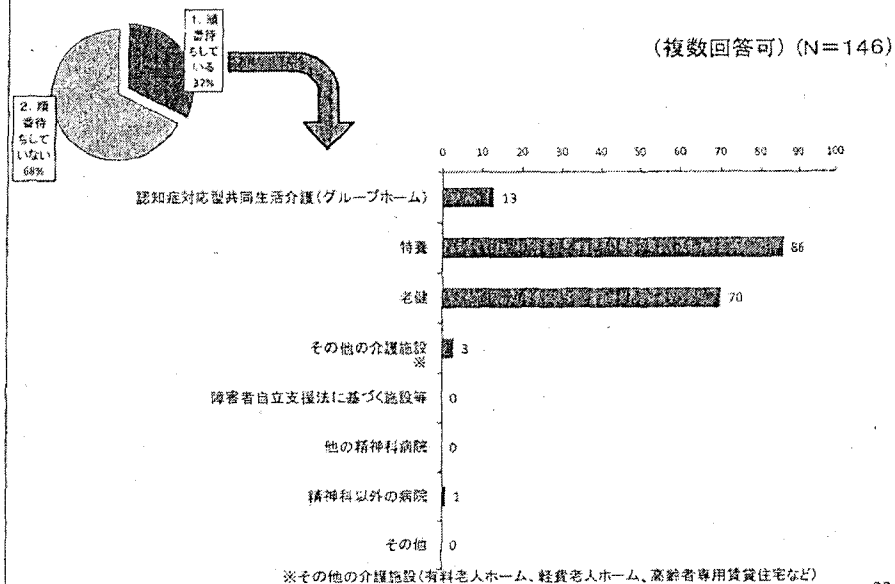
- 可能
- 不可能

問28 問24で4の回答をした人のうち、退院の可能性がない理由 (N=283)



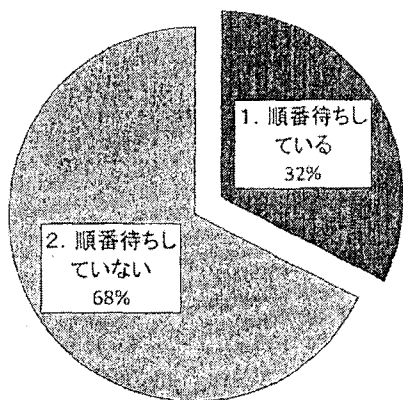
- 1. 自傷行為・自殺企図の可能性が高い
- 2. 地着行為の危険性が高い
- 3. 大声を出す可能性が高い
- 4. 上記、2、3以外の迷惑行為を起こす可能性が高い
- 5. 治療・服薬への心理的抵抗が強い
- 6. 陽性症状(幻覚・妄想)が重症
- 7. 精神症状・異常行動を伴うため、入院による身体合併症の医療ケアが必要
- 8. 生命維持が必要な程度の身体合併症を伴う(気管切開・IVHなど)
- 9. 本人の症状は落ち着いているが、家族からの退院の了解が得られない
- 10. 介護が必要だが、本人の症状が落ち着かず、介護の支援があったとしても生活が組み立てられない
- 11. 経済的な理由
- 12. その他

付問29-1 問29で1の回答をした人のうち、どのような施設を順番待ちしているか

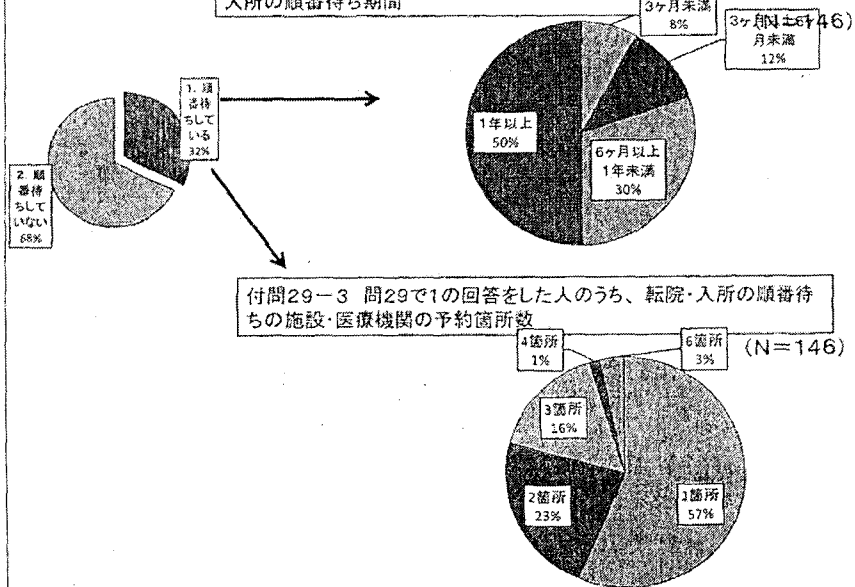


問29 現在転院・入所の順番待ちをしているか

(N=452)

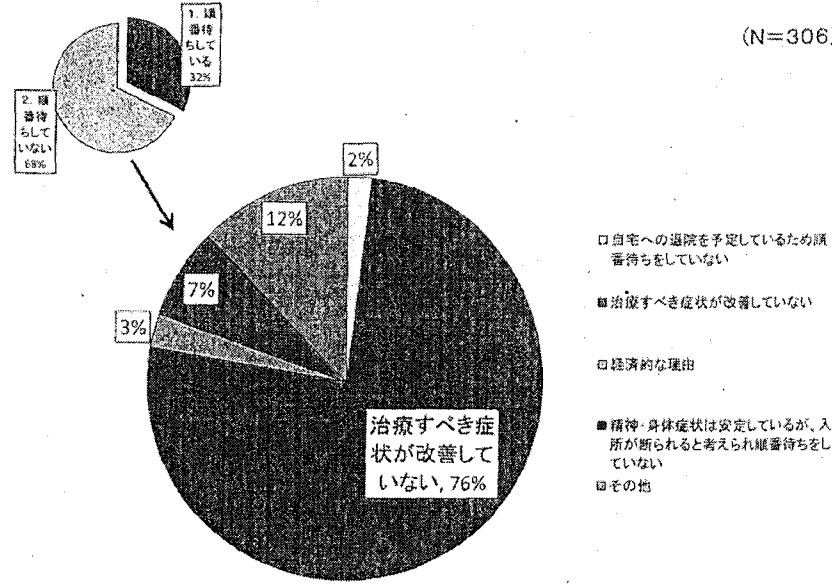


付問29-2 問29で1の回答をした人のうち、転院・入所の順番待ち期間



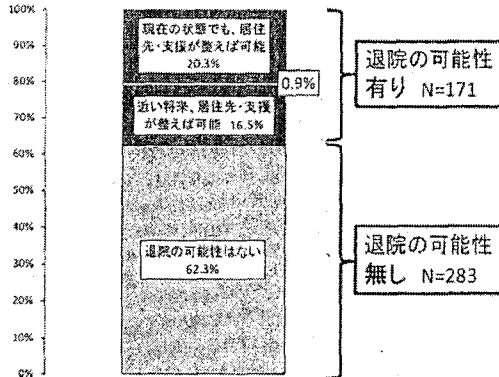
付問29-4 問29で2の回答をした人のうち、順番待ちをしていない理由

(N=306)

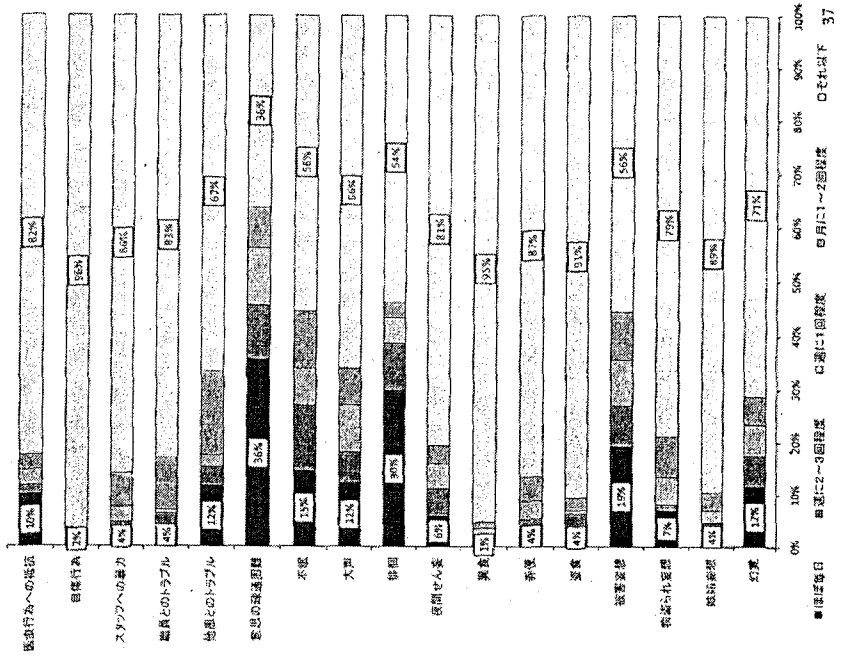


問24(居住先・支援が整った場合の退院の可能性)とのクロス集計

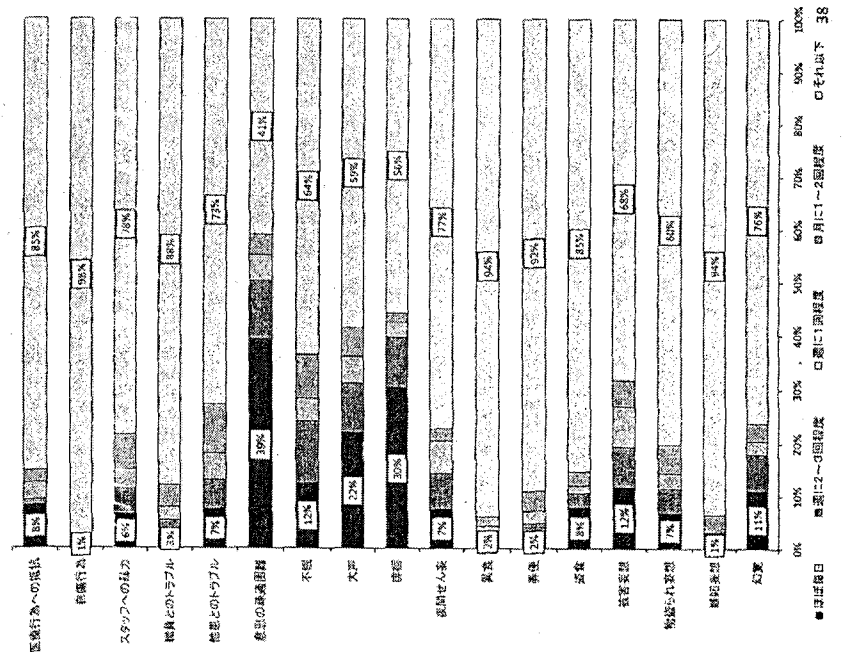
- 1. 現在の状態でも、居住先・支援が整えば退院は可能
- 2. 状態の改善が見込まれるので、居住先・支援などを新たに用意しなくても近い将来(6ヶ月以内)には退院が可能になる
- 3. 状態の改善が見込まれるので、居住先・支援が整えば近い将来(6ヶ月以内)には可能になる
- 4. 状態の改善が見込まれず、居住先・支援を整えても近い将来(6ヶ月以内)の退院の可能性はない

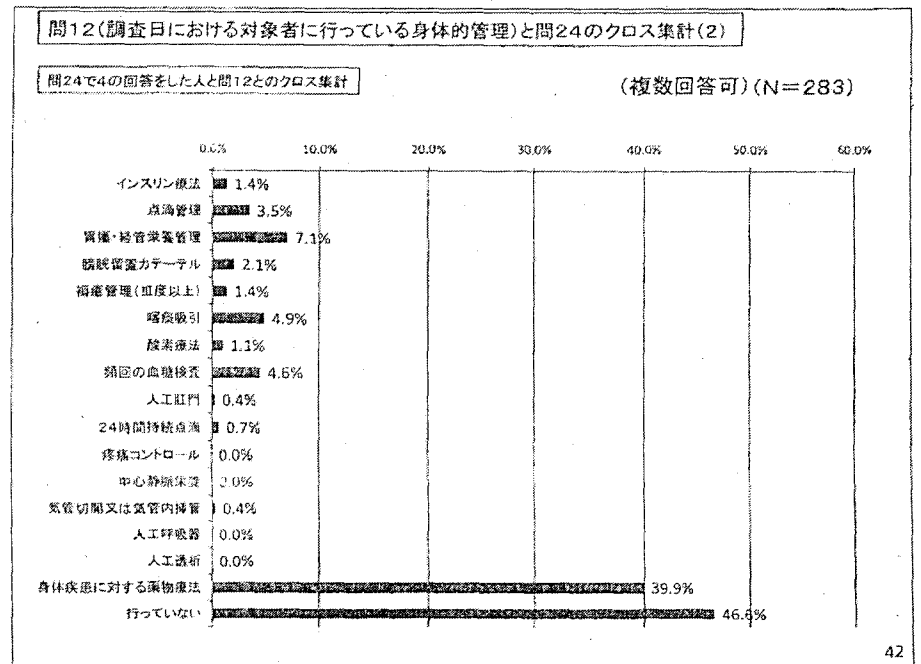
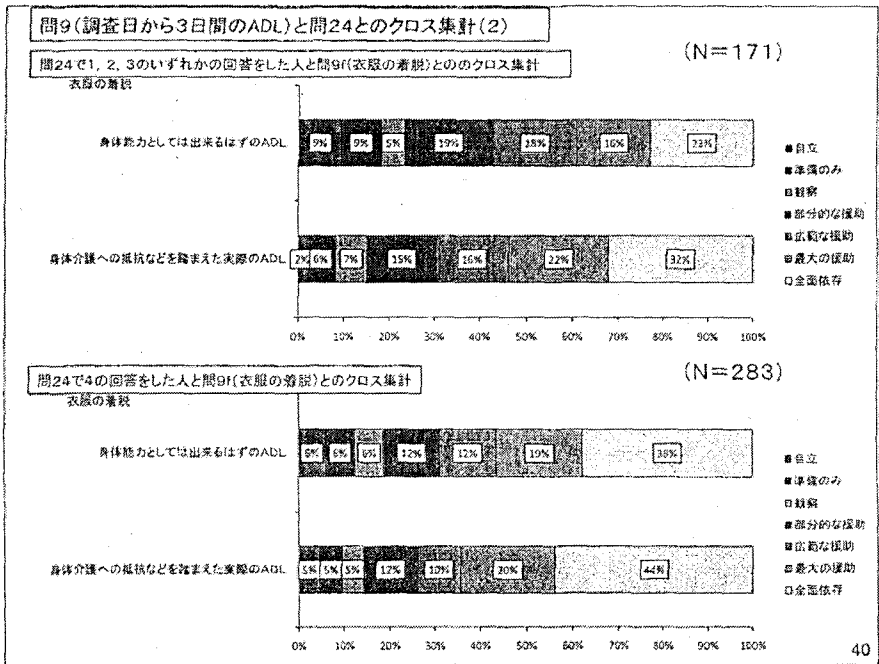
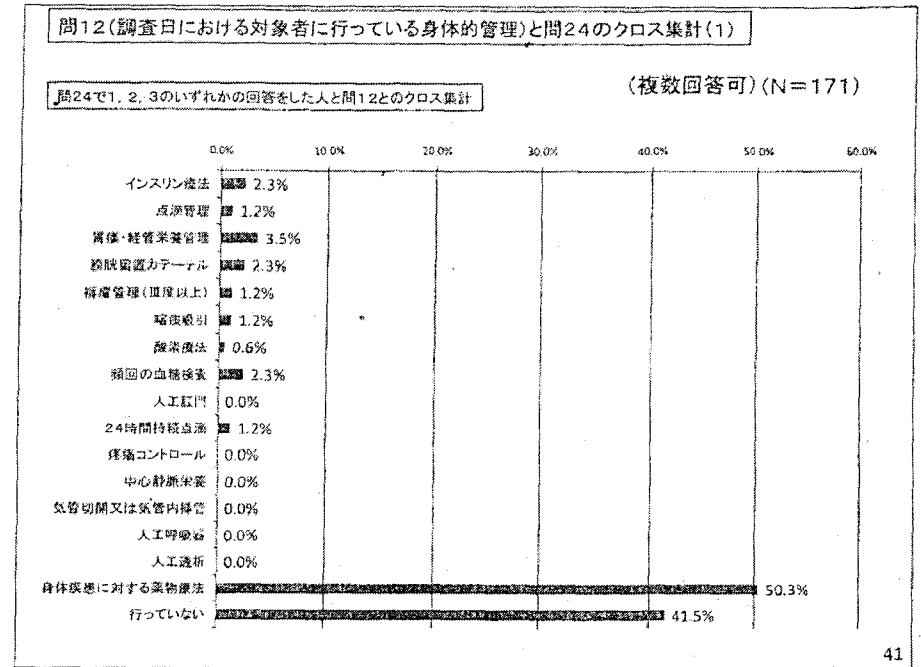
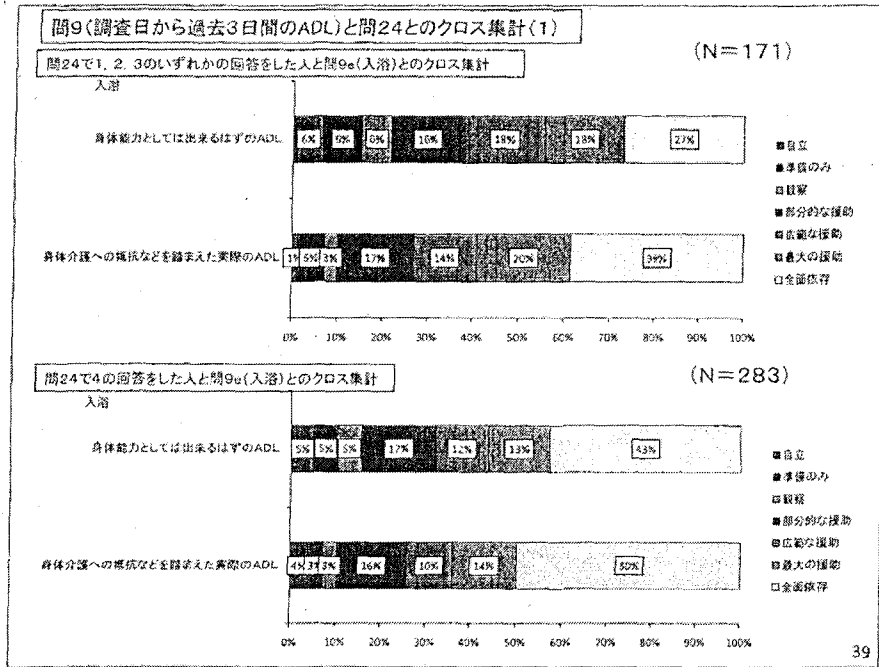


問24で1、2、3のいずれかの回答をした人と問8のクロス集計 (N=171)



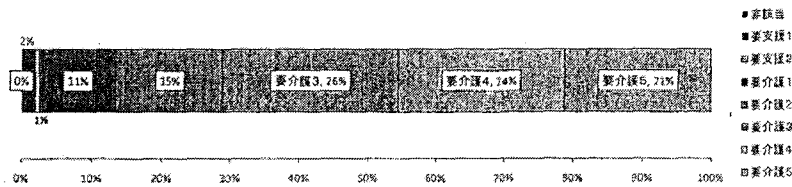
問24で4の回答をした人と問8のクロス集計 (N=283)



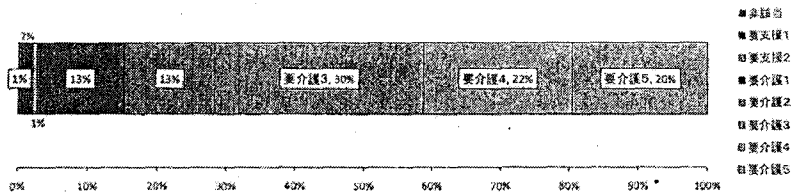


問6(要介護認定)と問24のクロス集計

問24で1, 2, 3のいずれかの回答をした人と問6とのクロス集計【申請なしを除外して集計】 (N:156 =171-15)



問24で4の回答をした人と問6とのクロス集計【申請なしを除外して集計】 (N:184 =282-98)



43

「精神病床における認知症入院患者に関する調査」に関する論点(案)

精神病床における認知症入院患者(454人)に関する集計結果を踏まえ、論点(案)や退院可能性の有無と関係すると思われる項目について、調査結果に対する論点(案)として整理した。

論点1 精神症状・異常行動と治療の状況

- 過去1カ月間に何らかの精神症状・異常行動のあった割合は、99%【問8】
- 精神症状・異常行動の発生頻度は、「ほぼ毎日」と回答した患者の割合は、「意思の疎通困難」38%、「徘徊」30%、「大声」18%
「月1~2回程度よりも少ない(月1回未満)」と回答した患者の割合は、「意思の疎通困難」39%、「徘徊」55%、「大声」61%【問8】
- 過去1週間に薬物を使用している患者の割合は、身体疾患治療薬82%、抗精神病薬56%、その他の向精神薬56%、抗認知症薬7%【問14】
- 過去1カ月に精神科専門療法を行っている患者の割合は、「入院生活技能訓練療法」60%、「音楽療法、その他の精神科リハビリテーション」51%、「入院精神療法」31%【問14-2】
- 精神症状・異常行動の状況【問8】について、「状態の改善が見込まれず、居住先・支援を整えても近い将来(6ヶ月以内)の退院の可能性はない」の患者(62%)と、それ以外(退院可能性がある)の患者【問24】で比較したところ、「大声：ほぼ毎日」の割合がそれぞれ22%、12%、「徘徊：ほぼ毎日」はともに30%【スライド37, 38】

⇒ ほとんどの患者が何らかの精神症状・異常行動を有する。精神症状等の発生頻度では、「意思の疎通困難：ほぼ毎日」が約4割である。それ以外の症状は、月1~2回より少ない(月1回未満)患者が半数以上を占める。また、精神症状に対する投薬・治療を行っている患者は約6割である。精神症状・異常行動及び治療の状況と退院可能性との関係について、どのように考えるか。